

2014年度 後期		リフレクションペーパー						
学科名	生物環境化学科							
科目名	有機化学Ⅱ							
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年次後期			
必修・選択の別	必修(バイオサイエンスコース)、必修(食品生物資源コース)、必修(エネルギー・環境コース)							
担当者	菅野 憲一							
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・芳香属性について理解し、求電子置換反応と置換基による配向性を修得する。 ・ラル化合物の絶対立体配置(R, S表示)、対掌体、ジアステレオマーに関して修得する。 ・求核置換反応機構を理解し、種々の化学合成に応用できるようにする。 ・ルイス酸-塩基に基づくアルコール、フェノール類の性質を修得する。 ・エーテ、エポキシドの物理的・化学的性質を理解し、その合成法を修得する。 							
日程と内容	<p>9/17 授業概要の説明、成績評価法、有機ハロゲン化合物の求核置換反応。 9/24 SN2反応機構、SN1反応機構を修得。フィッシャー投影式、R-S表記。 10/ 1 E2脱離反応機構、E1脱離反応機構を修得。「cis,trans」、「Z,E」 10/ 8 アルコール、フェノール類の命名法およびその酸性度、塩基性を修得。 10/15 アルコールの脱水反応。Saytzeff則、Hofmann則にのっとった生成物。 10/22 アルコールの種々の反応 酸化反応など、アルコールの様々な反応を修得する。 10/29 エーテルの命名法、エポキシドの開裂反応 Williamson合成法を修得する。 11/12 アルデヒドとケトンの性質を修得する。IUPAC命名法による化合物名。 11/15 アルデヒドとケトンの水和～還元反応を修得する。 11/19 アルデヒドとケトンのGrignard試薬の付加～アルドール縮合を修得する。 11/26 カルボン酸の性質を修得する。 12/ 3 カルボン酸の反応を修得する。エステル化などの種々の反応式を書けるようになる。 12/10 アミンの性質を修得する。 12/17 アミンの反応を修得する。 1/14 第1回～第14回までのまとめ。例題を解きながら復習。 1/21 定期試験</p>							
成績評価基準	定期試験	100%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	0%	計	100%
	演習	0%						
授業到達目標の達成度	到達目標に掲げられた項目は、臨時試験および定期試験において試験された。その結果、高い合格率でありかつ、かつ不受験、放棄を除外した不合格者を含めた評価対象者の平均点は79点であった。このことから概ね到達目標を達成しているものと考えられる。しかし、食品衛生課程の必修科目であるため、欠席超過によって不合格となった受講生が複数出てしまった。							
反省点	授業内容を削減する事ができないため、演習問題などで理解を促進するように努めたものの、講義についてこれない受講生もいた。宿題を出すことで自己学習を促したもののアンケート結果から見る限り予習復習をしたという受講生は3.8ポイントであり、あまり高いとはいえなかった。しかしながら、ほとんど全ての学生が授業に大変、協力的であった。							
来年度の計画	受講生のご協力のおかげで静寂な授業環境を維持できた。短い時間内に効率よく理解するための工夫として、本年度からmoodleを利用した演習を開始した。これまで、有機化学Ⅰ、Ⅱでは教科書の半分程度しかカバーしていませんでしたが、カルボン酸やアミンなど重要な内容も教授する必要があるため、本年度からは有機化学Ⅱの内容の一部を有機化学Ⅰへ内容をシフトして、有機化学の教科書の内容を1年で修得できるようにした。							
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価は昨年度の8.2よりもポイントを上げて8.6であった。反省点を改善し、よりよい講義を目指します。							
履修登録者数	71名	定期試験 受験者数	67名	合格者数	61名	合格率	91%	